

fǎ yǔ zhī yán néng wú cóng hū
法語之言，能无从乎？hōu gō gēn
法語の言は、能く従うこと無からんや〈子罕第九〉うえだ あつ お
桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄

価値観は人により時代により、それぞれ違いがあつて当然ですが、時代を超えて、誰もが肯定せざるを得ない正しい言葉というものがあります。この表題にある「法語」とはそういった類のものです。「正言」「常言」と置き換えることもできます。「仁」とか「義」、今風に言えば「良心」とか「正義」などがこれに当たるでしょう。こういう言葉には従わないわけにはいかない。これがこの表題の意味です。

言葉は続きます。「改之為貴 (Gǎi zhī wéi guì) (之を改むるを貴しと為す)。一般論、抽象論の域に留まる場合はともかくとして、具体的な事例が絡むと、そういう言葉は時として耳に痛く響くことがあります。当事者が公的な立場にあればなおさらです。公的な間違いが露見した際、人はどういう行動を選ぶか。非難する相手に土下座して謝るか。深々と頭を下げて反省の意を表すか。それとも長々と弁解を繰り返すか。いずれにしても正義と良心にもとる行為があつた以上、表立った反抗はできないでしょう。

しかし、犯した誤ちを表向き認めて謝ることは、以後の行動を改めることとは別問題です。いかに懺悔しようが弁解しようが、その結果が以後の行動に表れなければ何の意味もありません。「過てば、之を改むるに憚る勿れ」〈学而第一〉、「過(あやま)ちて改めざる、是を過ちと謂う」〈衛霊公第十二〉、「過ちを式たびせず」〈雍也第六〉も同様の意味合いです。

過ちを犯した場合、謝るべしと、孔子は一度も言っていない。謝るのは簡単だが、改めるのは難しい。しかしそれこそが大事なことだ。孔子はそうに考えていたようです。

言葉はさらに続きます。「巽与之言，能无说乎？ 绎之为贵。(Xùn yǔ zhī yán, néng wú yuè hū? Yì zhī wéi guì) (巽与の言は能く説ぶこと無からんや。

之を繹めるを貴しと為す)。「巽与の言」とは婉曲な言い回しのことです。同じく批判であっても、婉曲に言われると耳に快く響きます。時にはこれが、過ちを犯した人に言い逃れの道を提供することもあります。こういう批判ならだれしも喜ぶことでしょう。ここでいう「説」は「悦」の異体字で、「よろこぶ」という意味です。「繹める」とは糸を引くこと、ここでは糸をたぐるようにして真意にたどり着くことです。婉曲な言い回しは耳に快いが、真意はわかりづらい。しかしそれをたどって見極めることが大事だ、と孔子は言っているのです。

そして言葉はさらに続きます。「说而不绎，从而不改。吾末如之何也已矣！(Yuè ér bù yì, cóng ér bù gǎi, wú mò rú zhī hé yě yǐ!)」説びて繹ねず、従いて改めず。吾之を如何ともする末きのみ)。快い言葉を耳にして喜んだり安心したりするが、その奥にあるものを見極めようとはしない。正しい言葉を聞いて神妙な素振りを見せるが、だからと言って自分の行いを正すこともしない。まさに暖簾に腕押し。そういう人たちに対して自分は一体何をしたらいいのだろう。「どうすることもできないなあ〜」。こう言つて孔子は人々に覚醒を促しています。「末」ここでは「無」と同じ意味です。

興味深いのは「也已矣」という最後の三文字です。何れも感動助詞で、格別の意味はありませんが、ここには言いようのない孔子のジレンマが秘められています。

差別は良くないと言いつつ、差別意識から抜けきれない人。原発は危険だと知りながら、原発をやめられない人。耳の痛い話ですが、孔子なら何と評したでしょう。

(わんりい「中国語で読む漢詩の会」講師)